

公益社団法人長崎県理学療法士協会



## 令和3年度学術研修会

テーマ：「脳卒中患者の運動療法  
～体性感覚へのアプローチと歩行獲得のための装具療法～」

講師： 長谷川 隆史 先生

### 【講師プロフィール】

#### ○略歴

年	月	経歴
2005	3	長崎リハビリテーション学院 理学療法学科 卒業
2005	3	特定医療法人三校会宮崎病院 リハビリテーション科
2010	4	医療法人和仁会和仁会病院 リハビリテーション科（在職中）
2014	9	西九州大学非常勤講師「脳と認知科学」（～2020年）
2015	3	西九州大学大学院 健康福祉学研究科 健康福祉学専攻 卒業（修士課程）
2016	4	長崎大学大学院医歯薬学総合研究科医療科学専攻（博士課程：在籍中）

#### ○実績功績・論文

年	月	内容
2011	11	mirror box 課題における運動イメージ想起の関与が体性感覚野に及ぼす影響（短報：総合リハビリテーション）
2013	4	痛みの高負荷運動による身体疲労の影響と慢性頸部痛者への低負荷運動の疼痛抑制効果（2013年度日本理学療法士協会研究助成）
2017	8	Somatosensory cortex excitability changes due to differences in instruction conditions of motor imagery（原著：Somatosensory & Motor Research）

### 【講演内容】

身体運動を起こすためには、リアルタイムに自己の身体がどのような空間に位置しているかといった身体図式の存在が不可欠である。この身体図式は、体性感覚情報と視覚情報をマッチングさせるなど多種感覚情報を統合することで脳内にアップデートされていくと報告されている。

脳卒中患者において、このような脳内機構が破綻し身体運動に障害を来すことがある。そのリハビリテーション介入手段として、運動イメージやバーチャルリアリティを用いた介入が有用である可能性があり、脳卒中治療ガイドライン 2021 年原稿案にも紹介されている（推奨度 B，エビデンスレベル中）。

本研修会では、これらの介入手段等に関する臨床における自験例と基礎研究を紹介し、先行研究をレビューしながら進行していきたい。参加者の皆様の明日からの臨床の一助になれば幸いである。